



●●●● 少女雑誌の部屋から ●●●●

少女雑誌の部屋では、少女雑誌コレクションといたしまして、現在、およそ9,200点の資料を保存管理しております。雑誌の中には、紙質や状態がよくないものもあるため、取り扱いには慎重を期す必要があります。その価値や希少性に打ち震えることもしばしばです。これらの貴重なコレクションの数々を、より多くの方々に知っていただけるよう、今年度からはSNSを活用して情報を発信してまいります。企画展の案内や、コレクションの紹介など、少女雑誌の持つ魅力が伝えられる内容でお届けできればと考えておりますので、どうぞご覧くださいませ♪

Girl's Magazine Collection

菊陽町図書館では、明治30年代～昭和40年代に発行された少女向け雑誌のうち、主に「連載小説が掲載されているもの」を「少女雑誌」と定義し、少女雑誌(約70誌)とその付録、少女雑誌の流れをくむ少女漫画雑誌、その他関連資料を所蔵しています。対象年齢は、現在の小学校高学年から高校生くらいの少女たちで、内容は、小説、詩、ファッション、ヘアスタイル、インテリア、料理、芸能、手芸など多岐にわたっていました。そのため、戦前の文化や児童文学、漫画の黎明期について等の研究をする上でも大変貴重な資料として注目されています。

✿ 人気のあった少女雑誌より ✿

『少女の友』 実業之日本社

明治41年2月号～昭和30年6月号
48年の歴史を持ち、少女雑誌史上最高峰とも称される日本の代表的少女雑誌。家族的親愛主義をモットーに、読者との密接な交流を重視。抒情性を基調に、娯楽、教養的読物、読者からの投稿を中心に編集されていた。主筆(編集長)が誌面で筆を揮った点にも特色がある

『少女画報』 少女画報社

明治45年1月号～昭和17年3月号
『婦人画報』の姉妹誌として創刊。「良妻賢母」主義を基調にした読みものと実用記事中心の誌面構成で、主に東京や横浜に住む都会の女学生が愛読していた。
戦時雑誌統合令により、昭和17年3月に終刊を迎え、4月号からは『少女の友』に統合された。

『少女倶楽部』 大日本雄弁会講談社

大正12年1月号～昭和37年12月号
講談社の基本理念「おもしろくてためになる」とおり、教科書の副読本的な編集方針を貫いた。
発行部数を多くして地方でも販売し、貧富の別なく全国の少女たちに読む機会を与えた功績は大きい。
昭和21年4月号より『少女クラブ』に改題された。

少女雑誌 Q&A

Q:日本で一番古い少女雑誌って？

A:明治35年に金港堂書籍より発行された『少女界』とされています。同社が発行していた『少年界』の妹雑誌として創刊されました。少女小説を掲載したほか、「少女文学」「学芸」「御伽噺」などの文芸欄や通信欄を設け、読者からの投稿作文も募集していました。

Q:新年号が2冊出た年があるのはなぜ？

A:戦後、雑誌の販売競争が激化し、発売日が徐々に早まります。10月の末には翌年の新年号が出るという状態になったため、混乱を解消すべく出版社同士が自主的に協定を結んで発売日を調整することになりました。その結果、昭和26年の新年号が昭和25年11月と12月の2回発行されました。

Q:雑誌のふろくが国鉄を苦勞させたってどういうことなの？

A:昭和16年頃～戦後しばらくは用紙不足から雑誌の本体頁数も少なくなり、ふろくが付くこともありませんでしたが、再びふろくが付くようになると出版社同士のふろく合戦がエスカレートしていきます。資材が紙からビニール製品など多岐にわたった結果、梱包の際にふろくだけで本誌の倍以上の厚さになるという事態が生じました。当時、雑誌の輸送を一手に担っていた国鉄は苦勞の末、細かい材質規定を設けてふろくに歯止めをかけた時期もありました。